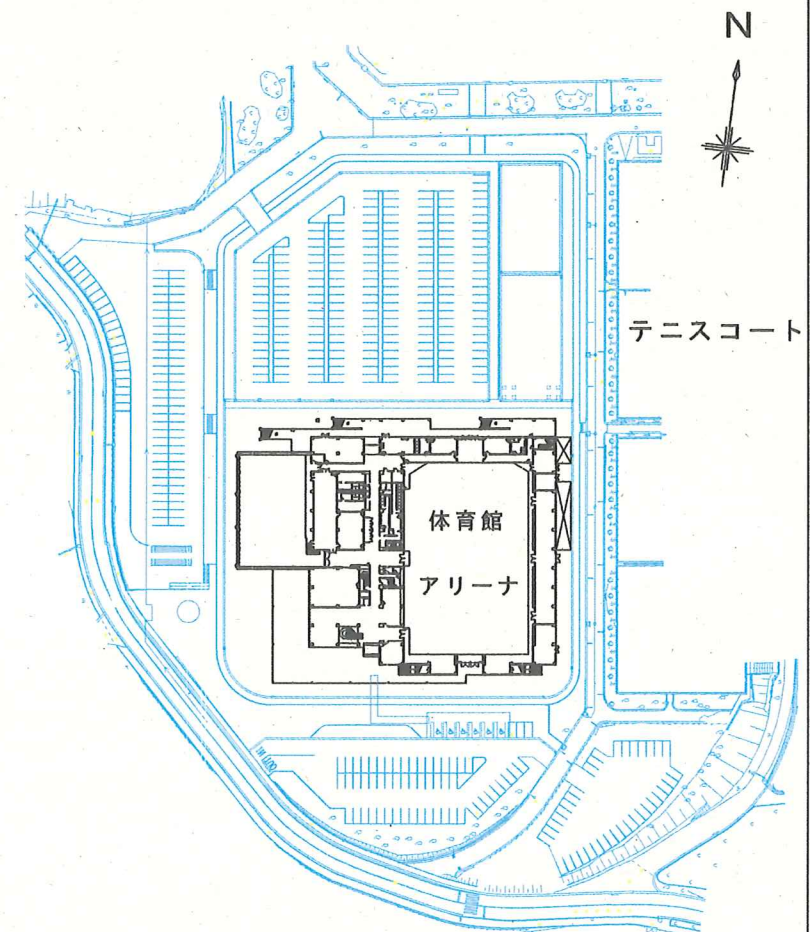


- 凡例
- 硬化不良
 - 健全
 - 不明(未調査)
 - 未施工

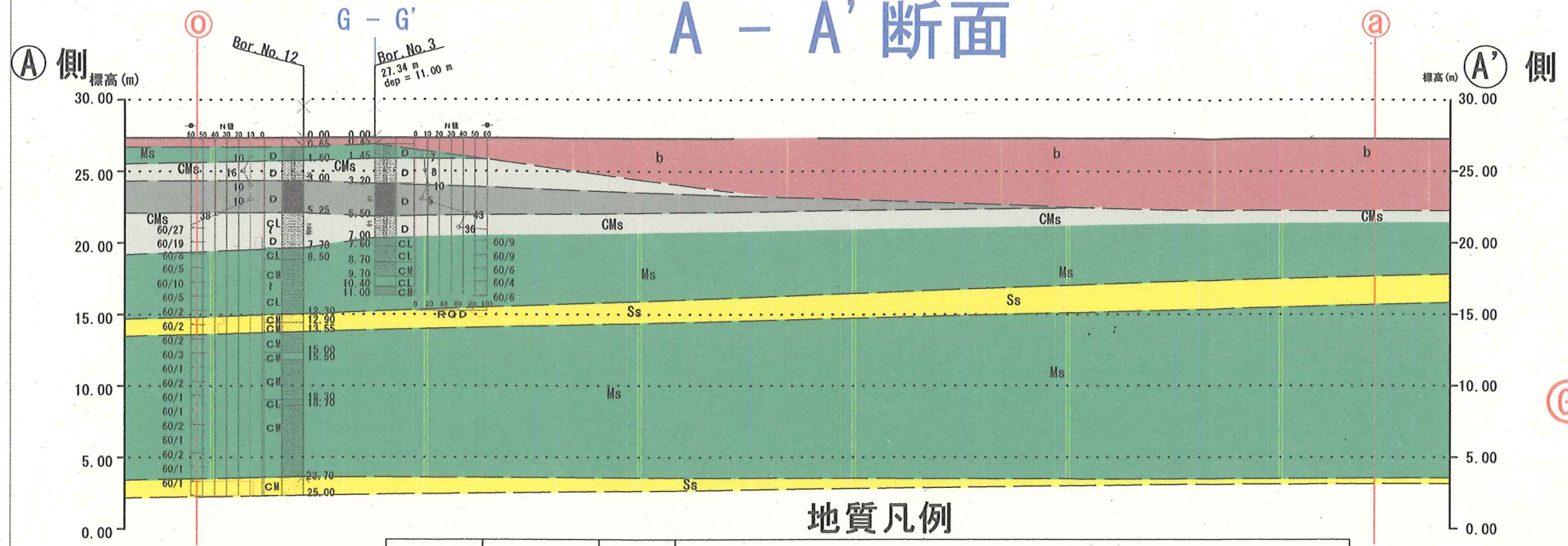
現時点で改良杭の施工を完了している範囲

杭全数	1 1 6 8 箇所
未施工杭	5 3 1 箇所
施工済み杭	6 3 7 箇所
硬化不良杭	5 3 箇所
健全杭	9 箇所



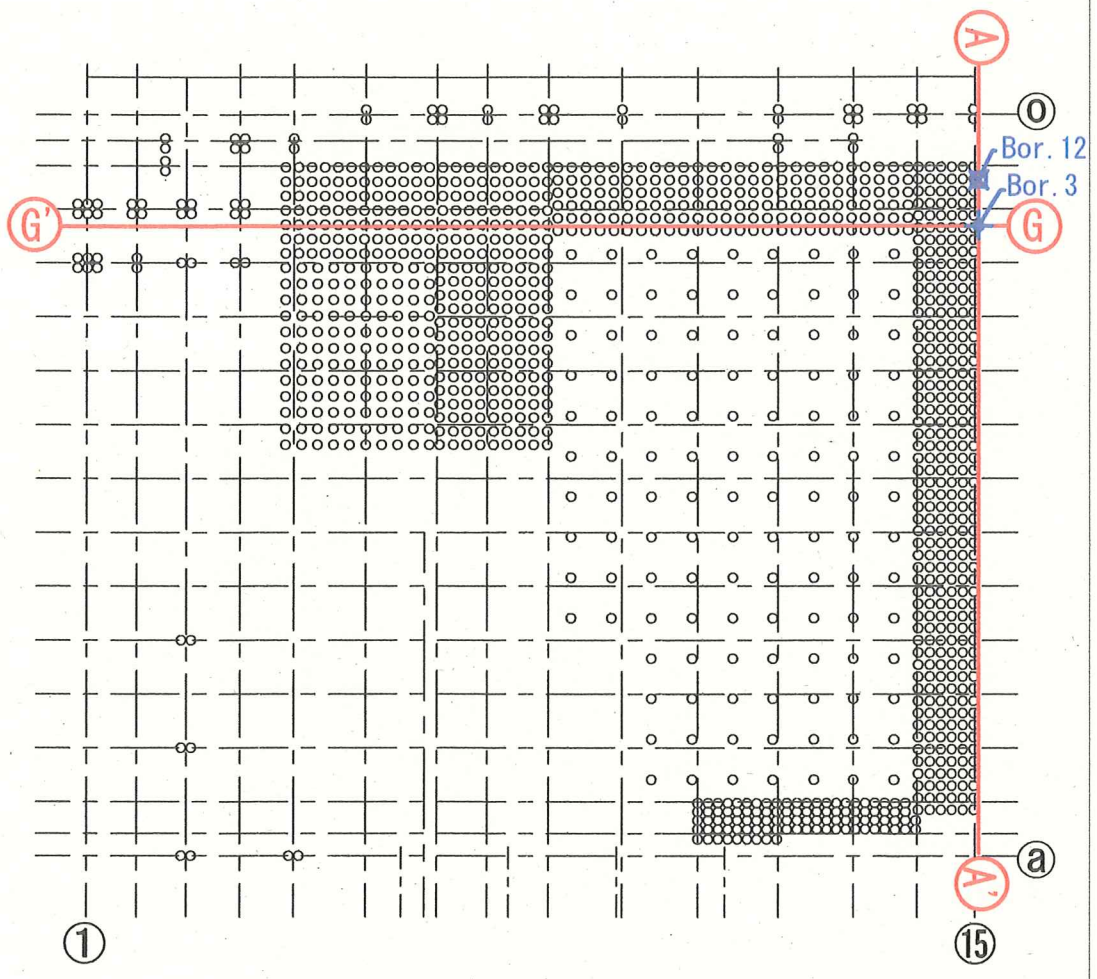
地質状況 (断面図)

A - A' 断面



地質凡例

地質時代	地層名	記号	記事
新 第四紀世	盛土	b	敷地造成に伴う盛土。主に泥岩や砂岩の強風化岩土起源の礫混じり粘土～礫混じり土より成る。部分的に黒褐色のボタ土を含む。層厚は概ね0.5m前後～4m程度が多いが、Bor. No. 15では最大9m程度が確認された。N値は概ね10未満を示し、軟らかい～中位のコンシステンシーを示す。敷地表層付近では透水性の良い締まった礫層やサラサラした砂が分布する。
	泥岩	Ms	調査地の基盤岩で最も主体に分布する。新鮮部では暗灰～淡灰色を呈し50cm以上の長棒状に採取される。風化部では軟質化済み、固結土状を呈し、N値は10未満である。
生 古 始	石炭	C	ボーリングNo. 1孔, No. 3孔, No. 12孔で確認された。層厚はNo. 3孔とNo. 12孔で最も厚く2.3m程度である。No. 1孔では0.2mと非常に薄い。コアは細礫～角礫状に砕けやすく指圧にてバラバラに崩壊する。色調は黒褐色で光沢がある。
	炭質泥岩	CMs	薄い石炭層を挟む泥岩層で、ボーリングNo. 1孔, No. 3孔, No. 12孔で確認された。石炭層の上下に分布し、一部No. 12孔の深部でも薄く分布している。浅部の炭質泥岩は強風化しており、カッターナイフで容易に削れる程度である。深部では多少黒色を帯びているが岩片状～角礫状を呈す。
代 第三紀世	砂岩	Ss	泥岩層内に層厚数10cm～2m程度で薄層状に分布する。概ね細粒砂岩が多く比較的新鮮で暗灰～青灰色を示す。風化部では褐色を帯びて割れ目が発達し岩片状～短柱状コアを呈す。



G - G' 断面

